



応用生態工学会ニュースレター

Ecology and Civil Engineering Society (ECESJ)

No.40

2008 (平成20) 年6月16日(月) 発行

〔発行所〕 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520 E-mail: ec-es-manage@ec-es-j.com HP: http://www.ec-es-j.com/

〔発行者〕 応用生態工学会 (編集責任者: 幹事長 江崎保男, 事務局長 奥村興平)

Contents

1	はじめに	1
2	理事会・幹事会の報告	1
3	各委員会の報告	3
1)	会誌公開 (J-STAGE) の案内	3
2)	ホームページ充実計画	4
4	第12回大会 (ELR2008 福岡)	5
5	地域の行事案内	6
3)	平成20年度札幌セミナー	6
4)	東京勉強会	7
5)	第7回北陸現地WS in 能登	7
6	新刊紹介	8
7	編集後記: 事務局から	8

2 理事会・幹事会の報告

第33回幹事会と第41回理事会は、平成20年5月8日(木)の午後に(財)ダム水源地整備センター第2会議室において開催されました。先に行われた第33回幹事会(12時30分~14時30分)での議事内容、およびこれを受けて議事が進められた第41回理事会(15時00分~17時30分)の報告及び検討内容を以下に報告します。

第33回幹事会出席者

江崎, 熊野, 浅見, 内田, 鎌田, 萱場, 清水, 関根, 高野, 西, 星野 (記録: 事務局 奥村)

第41回理事会出席者

山岸, 近藤, 辻本, 森下, 奥田, 角野, 竹村, 中村, 間宮, 山本, 江崎 (幹事長)

編集委員長: 浅枝 事務局: 奥村, 浅見(記録)

1 はじめに

今回のニュースレターには理事会・幹事会の報告, 会誌のJ-STAGE 登載, 第12回大会(ELR2008 福岡), 各地域の行事案内, 海外学会等派遣募集などを掲載しています。

理事会と幹事会では平成19年度の事業報告地決算, 平成20年度と21年度の事業計画と予算案, さらに役員改選に係る規約改正等多くの議事を審議しました。

第12回大会は, 生態分野の応用的研究を行なう3学会(応用生態工学会, 日本緑化工学会, 日本景観生態学会)が一同に会し, ELR2008 福岡という名称で開催されます。大会概要と参加・発表申込書をホームページにも掲載していますので, 準備をお願いします。また, 地域の行事への積極的な参加のみならず実行への協力をお願いします。

<議事次第>

1. 報告事項

- 1-1 一般経過報告(平成19年度)と平成20年度予定
- 1-2 会員状況報告
- 1-3 平成19年度事業報告
- 1-4 委員会等報告
- 1-5 会誌編集報告
- 1-6 平成19年度決算報告(監査報告も含む)

2. 検討事項

- 2-1 平成20年度事業計画案・予算案
- 2-2 第12回大会[ELR2008 福岡]及び総会
- 2-3 平成21年度事業計画案・予算案
- 2-4 規約改正
- 2-5 その他

<議事内容>

1. 報告事項および関連意見など

1-1 一般経過報告(平成19年度)と平成20年度予定については、了承された。

1-2 会員状況のうち、平成19年度で退会する賛助会員4法人の事由は経費節減であることが説明された。LEE購読者増加策として、会誌やニュースレターへの広報を提案し了承された。さらに、投稿論文の増加策として、会員以外でも掲載料を徴収して投稿可能とする案が提案された。

1-3 平成19年度事業報告については、会誌のJ-SATAGE 登載に向けては①バックナンバー販売、②会員優先閲覧、③2年遅れ一般閲覧という手順が了承された。

会員メリットに配慮しつつCiNii(電子図書館)も検討するよう提案があった。

1-4 委員会報告

平成19年度の委員会・幹事会の活動・検討状況が集約されている第40回理事会(平成19年12月13日)に基づき報告を行った。

主要事項は下記のとおりである。

- ① ICLEE連絡調整は、江崎幹事長が担うこととなった。
- ② 専門研究会(仮称)は現段階では、山岸会長預かりで近藤副会長と竹門普及委員長が対談することとなった。
- ③ 表彰制度については、他学会等の動向を参考に継続審議することとなった。

1-5 会誌編集報告

10巻1,2号が同時発行(平成19年12月10日)され、11巻1号は平成20年6月発行予定であること、平成19年度の投稿数は32編で平成18年度より6編多いが、校閲中が19編あることが報告された。

1-6 平成19年度決算報告

予算に対して支出が大きい管理費、会誌編集費について、事務局、編集委員会の円滑な執行のため、必要な経費は適正に執行すべきことが

確認された。

また、繰越金については、学会の活性化や会員への還元にも有効に利用することを検討する必要があるとの意見があった。

2. 検討事項

2-1 平成20年度事業計画案・予算案(資料-8,9)

(1) 会誌(年間2号)とニュースレター(年間4号)の発行、行事などの開催は例年通りで承認された。

(2) 四国地域の地域研究会が、川越幸一さん((株)四電技術コンサルタント)を連絡責任者として活動開始することが承認された。なお、名称については今後検討する必要があることが指摘された。

(3) 委員会活動

① 交流委員会

年度内開催予定の海外学会紹介を添えて派遣者を公募している旨(5月末締切)の報告、および今年6年目を迎え韓国で開催予定の日韓合同セミナーの現状報告があった。日韓合同セミナーについては、活動体制や成果取りまとめ等についての状況報告があり、次年度以降の継続の有無、方法について、交流委員会が対応することが確認された。

② 情報サービス委員会

本年1月1日にリニューアルしたホームページの運営に関する提案(コンテンツ充実:情報収集・運用、“若手の会”独自ホームページリンク)について説明があり、“若手の会”によるリンク部分の自主管理の試行が確認された。

③ 会誌編集委員会

浅枝編集委員長から、編集状況、部分的な査読の遅延についての報告があった。編集委員会で査読期間短縮に向けた方策(体制、編集委員の査読実施、J-STAGE 活用等)を検討するよう要請があった。

(4) 平成20年度予算案

会誌編集と事務局運営の円滑な遂行のための作業補助について増額が承認された。

2-2 第12回大会 [E L R 2008 福岡] 及び総会

(1) 第12回大会

「健全な生態系の持続・修復を視野にいたした国土のプランニング」を、学界・行政・市民の連携のもとに進めようとする応用系学会である3学会 [応用生態工学会 (E&CE), 日本景観生態学会 (L), 日本緑化工学会 (R)] が合同して開催するE L R 2008 福岡の大会概要が説明され、ホームページやニュースレター掲載などを鋭意推進することになった。

(2) 総会

第12回大会期間中の委員会・幹事会・理事会及び総会の開催予定が報告された。

規約第14条第4項「総会は正会員の1/5の出席によって成立する。」のため第11回名古屋大会に倣って電子メール及び葉書により「委任状」の提出を依頼することが承認された。

2-3 平成21年度事業計画案・予算案(資料-11,12)

(1) 会誌(年間2号)とニュースレター(年間4号)の発行、行事等の開催は例年通りで承認された。

(2) 第13回大会は関東地区を候補地とし、浅枝隆編集委員長が実行委員長をつとめることが決まった。

(3) 平成21年度予算案

平成20年度並の事業計画を前提として策定された原案について、平成21年度は役員改選期に当たるので、暫定予算と考えることで承認された。

2-4 規約改正 (資料-13)

第21回理事会(平成15年6月14日)で決定された「次期役員候補選考制度」を参考にした試案を提示したが、幹事会で継続検討することとなった。

2-5 その他 (資料-14)

(1) 平成22年度大会

平成22年度の第14回大会開催候補地は北海

道とし、中村太士理事に実行委員長就任を依頼する案が承認された。

(2) 事務局体制

細則第5条に則り、第12回大会及び総会の円滑な遂行等のため、平成20年度末まで浅見幹事に事務局次長への就任を依頼することが承認された。また、次期事務局次長候補決定後は、現事務局との引継ぎのため就任に先立つ一定期間(約3ヶ月)事務局次長に就任することも承認された。

3 委員会の報告

1) 会誌公開(J-SATAGE)の案内

会誌編集委員会

応用生態工学会会誌「応用生態工学」Ecology and Civil Engineeringは、平成20年7月中旬(予定)より、(独)科学技術振興機構(JST)が運営している科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)に掲載していくことになりました。

J-STAGEとは、国内外の幅広い読者への科学技術情報の発信を目的として、多くの学術団体が発行する学術論文を電子化し、それらの論文の全文をWeb上で公開するシステムです。

応用生態工学会では、会員各位と一般の閲覧者との差別化を図るため、全文は発行から2年間認証(会員は別途お知らせするIDとパスワードの入力により登載後直ちに閲覧できる仕組)を掛ける予定にしております。

会誌「応用生態工学」に掲載された論文の閲覧が多くなり、活用される機会が増えることにより、応用生態工学の普及および著者の皆様への大きな利益が期待できるものと考えております。

会員各位のご理解とご協力を賜りたく、また今後とも会誌「応用生態工学」への積極的なご投稿をお願い申し上げます。

2) ホームページ充実計画

情報サービス委員会

<平成19年度活動状況報告>

情報サービス委員会は平成19年度には、ホームページのリニューアルに向けての検討を中心に活動を行いました。委員会は名古屋大会の際に1回行ったほか、幹部による学会事務局での打合せおよびメールによる意見収集などにより検討を進め、本年1月1日にリニューアルオープンしました。

リニューアルの主な内容と1年間の情報掲載・更新状況は以下のとおりです。

(1) ホームページ情報掲載・更新 32回/年
(会誌・ニュースレター・行事情報等)

(2) リニューアルの内容 (主な新規機能・内容)

- ◆ 全文検索機能を搭載
- ◆ 英文ページ
- ◆ 若手の会、地域活動のページ、委員会のページ用リンク作成 (中身は各々でこれから)
- ◆ 関連学会・団体等リンク集

<平成20年度活動計画>

平成20年度は主に、ホームページコンテンツの充実及び管理と、ホームページを通じて学会への関心を向上させる方策について検討あるいは活動の予定です。

(1) ホームページコンテンツ充実

- ① 情報収集策およびホームページ運用方針の検討
- ② 若手の会の独自ホームページリンク⇒6月10日に若手の会試験運用ページにリンク済
- ③ 普及委員会あるいは地域活動のページ：独自管理は可能なので、委員会で検討していただくことを促す。
- ④ 会誌バックナンバーの全文掲載：編集委員会の動きとJ-Stageへの掲載に応じて検討する。

(2) ホームページへの関心向上のための活動

ホームページに使用する写真を募集し、採用・掲載の管理を行う。

■ トップページ2枚、和文・英文のページ上部計4～5枚を四季ごとに更新するため、応用生態工学をイメージする写真を会員から募集する。

■ 募集要項、募集スケジュール、採用基準、採用・掲載を委員会に一任いただく。



4 第12回大会(ELR2008福岡)案内 (暫定版)

(応用生態工学会 福岡) 原田圭助

■開催主旨

応用生態工学会 (E&CE)、日本景観生態学会 (L)、日本緑化工学会 (R) はいずれも「健全な生態系の持続・修復を視野にいれた国土のプランニング」を、学界・行政・市民の連携のもとに進めようとする応用系学会です。この3学会はこれまで、互いに得意とする異なった場で研究をおこなってきましたが、「森・川・海」といわれるように地球上のすべての生態系はつながっており、つながりのなかでしか有効な目標設定と課題達成がおこなえないことは明白です。各学会で学会間連携の動きがほぼ同時的・自律的にわきあがってきました。連携実現の第1歩として、3学会の合同大会「ELR2008 福岡」を開催します。

1. 大会概要

- (1) 日程：2008年9月20日(土)～22日(月)
- 9月20日(土)
各学会委員会等，研究発表(口頭，ポスター)
資材工法展示，研究集会
- 9月21日(日)
研究発表(口頭，ポスター)，資材工法展示
各学会総会，懇親会
- 9月22日(月)
公開シンポジウム，エクスカージョン(一泊
コースは23日(火)まで)

- (2) 会場：福岡大学(福岡市城南区七隈)
※アクセス参照URL：
http://www.fukuoka-u.ac.jp/unv_guide/access/index.html

2. 申込み

(1) 参加申込み

すべての申込みは、『参加・発表申込書』(本ニュースレターに同封)により，7月31日(木)までに，参加費用をお振込のうえ，FAXまたは電子メールで下記あてお申込みください。大会参加費は，一般5,000円(当日参加6,000円)，学生3,000円，非会員8,000円，懇親会参加費は3,000円です。費用には講演要旨集が含まれます。

(2) 発表申込み方法

1) 発表形式

3学会のいずれかに所属していれば，どなたでも発表可能です。発表内容に校閲はなく，参加・発表申込みと要旨の提出により発表ができます。発表形式には口頭とポスターがあり選択できます。

ポスター発表にはポスター賞が設けられる予定です。ただし，件数によっては，口頭，ポスターの選択希望に添えない場合もあります。発表セッションは，発表部門，所属学会にかかわらずテーマによって割り振られます。(口頭発表は3会場)

2) 講演要旨

発表申込み後，要旨原稿(A4用紙1枚以内)を8月10日(日)までに提出していただきます。書式，提出方法は後日連絡いたします。

3. 公開シンポジウム

本大会3日目(9月22日(月))の公開シンポジウムは，応用生態工学会が，平成20年度河川整備基金助成事業(国民的啓発運動部門・一般的助成)として申請し，認められた助成金も活用して開催されます。現在，実行委員会でテーマが検討されており，後日周知される予定です。

4. エクスカージョン案内

(1) 日 時

- 日帰りコース
9月22日(月)13:00～18:30(福岡空港)
一泊コース
9月22日(月)13:00～23日(火)14:00
(福岡空港)

(2) 行 先

1) 壱岐南小学校ビオトープ(福岡市西区)

子どもや先生，大学，地域が設計段階から関わり，現在も成長し続ける，九州の小学校の中で最大規模の学校ビオトープです。田んぼと生け垣をモチーフとした設計で，2007キッズデザイン賞金賞を受賞しました。

[計画・設計：九州工業大学伊東啓太郎研究室
+福岡市立壱岐南小学校]

2) 石井樋(いしいび)

佐賀市大和町・嘉瀬川と多布施川の分流点約400年前に作られた飲料水や灌漑用水の供給用水路です。使われなくなり埋没していましたが，かつての姿のみならず機能の復元にも成功し，現在，公園として整備されています。アザメの瀬：佐賀県唐津市・松浦川右岸「河川の氾濫源的湿地の再生」と「人と生物のふれあいの再生」を目標とした自然再生事業によって創造された6haに及ぶ湿地帯で，今年度の土木学会環境賞を受賞しました。

アザメの瀬と石井樋の事業は，九州大学の島谷幸宏氏のコーディネート(武雄河川事務所所長当時)によるものです。

3) 武雄温泉* (佐賀県武雄市(予定))

一日目の見学地に関するディスカッションを肴に，食事と(酒と)温泉をお楽しみ下さい。

4) 干潟よか公園* (佐賀県佐賀郡東与賀町)

海岸堤防の耐震工事によって消失した干潟の代償として，干潟の生物を保全するために創出

したハビタットが見学できます。希少植物のシチメンソウや、かわいいムツゴロウにも出会えます。

5) 住之江公園・六角川河口堰* (佐賀県小城市 芦刈町)

住之江公園では、1日の干満差が6mを越す有明海の干潟の生物を間近で観察できます。高潮時のみ閉鎖する珍しい六角川河口堰もご覧いただけます。

[注記] 3)~5) *は一泊コースのみです。

(3) 参加費

日帰りコース : 3,000円程度 (未定)

一泊コース : 10,000円程度 (未定)

エクスカージョン担当

: 真鍋徹 (北九州市立いのちの旅博物館)

manabe@kmmh.jp

5. 地域の行事案内

1. 平成20年度 札幌セミナー (案)

(応用生態工学会 札幌) 岩瀬晴夫

■開催趣旨 (素案)

「多自然型川づくり」(1990通達)の“型”を外した「多自然川づくり」(2006)に姿を変えて一年経過しました。私たちは言葉だけが先行しないよう、地に足をつけながら「その川の川らしさ」にこだわってきました。

それまでの川づくりは、複雑な自然現象のなかで、人間にとって危険な状態を想定し、割り切った設計条件が前提の力学的設計論が主流でした。しかし「多自然(型)川づくり」のような「その川の川らしさ」にこだわる場合、割り切った設計条件はありえず、その川が本来もっている自然条件と時間経過を考慮した実践的設計論に着目せざるをえません。当会の中村代表は河川(2004年3月号)という雑誌に、予測できない生態系の応答を前提とした新たな河川の管理手法として実験的管理を提案しました。実験的管理とは、現地実験を繰り返して、現在実施されている管理手法を検証しながら、より良い対策を考え出していく管理手法、と説明しています。同様の方法が江戸時代には「見直し」と呼ばれ、実際に実施してみよう様子を見て、不都合があれば軌道修正していく、そのような手間と手入れの時間をかけ、人間のエネルギーで川

普請をしていたようです。

手間と手入れをかける時間が許される状況にない現代ですが、「見直し」の規模と時間を短縮したものに水理模型実験があります。川らしさと直結する河川地形をつくる流れと土砂移動の現象を俯瞰できる模型実験は「多自然川づくり」の実感には遠いのですが、若干近づき手段になりえると考えます。また、「多自然型川づくり」から「多自然川づくり」に姿を変えた動向の背景を、川づくりの関係者が共通認識としておくことも大切でしょう。

以上のことから平成20年度の札幌セミナーは、午前中に大中小の水路実験を行い、午後は「多自然(型)川づくり」の文章作成等にかかわったメンバーから話を聴くプログラムを組みました。

- (1) 主催: 応用生態工学会 札幌
- (2) 共催: (独法)寒地土木研究所
- (3) テーマ: 「本来の川を取り戻すために…その4」 型を取った“多自然川づくり”
- (4) 開催日: 平成20年8月25日(月)or26日(火)
- (5) 場所: (独法)寒地土研
(札幌市豊平区平岸1条3丁目)
- (6) 現地セミナー: 9:00~12:30
川を知るための水路模型実験
 - ① 屋内 高速循環水路実験…渡辺康玄講師 (北見工大)
 - ② 屋外 出前実験…池田宏講師(元・筑波大学陸域環境研究センター)
 - ③ 屋外 川をつかった水路実験…高橋浩揮主査(札幌土木現業所, 元リバフロ)
- (7) 室内セミナー: 13:30~18:00
寒地土研講堂で講演
 - ①はじめに…中村太士応用生態工学札幌代表 (北大大学院)
 - ②水路実験の結果をどう使うか…
長谷川和義講師 (元・北大大学院)
 - ③「多自然型川づくり要領」通達の頃を振り返って
土屋進講師 or 松田芳夫講師 (元・(財)リバーフロント整備センター)
 - ④型を取った「多自然川づくり」基本方針に至る経緯…
小俣 篤 国交省近畿整備局
淀川河川事務所所長(前・国交省河川局 河川環境保全調整官)

⑤「多自然川づくり」のポイント…
吉村伸一講師吉村伸一流域計画室代表

⑥質疑応答
司会…山本充(小樽商科大学 教授)&
高橋一浩(独法)寒地土木研究所

- (8) 定員：200名
(9) 参加費：2,000円
(10) 懇親会：19～21時

キリンビール園中島公園店

2. 東京勉強会

(応用生態工学会 東京) 高橋和也

■開催目的

東京を含む関東圏においては、セミナーや発表会、エクスカッションといった関東独自の学会活動が行われていません。そのため、関東在住の会員どうしが、関東圏内において気軽に情報交換したり、意見交換したりする場がないのが現状です。

そこで、会員相互が交流できるような場を創出するために「勉強会」を開催し、会員へのサービス向上に努めることとしました。将来的には、環境NPO等で活躍されている一般市民とも交流がはかれるような場へと発展させることも考えています。もっとも会員人数の多い関東圏でこのような活動を行うことで、ひいては学会全体の活性化にも寄与できるものと考えています。

(1) 活動実績

第1回：平成19年11月21日(水)
会場：(財)ダム水源環境整備センター会議室

座長：浅枝隆 (埼玉大学)

発表：3編，参加者：21名

[詳細はニュースレターNo. 38号参照]

第2回：平成20年6月3日(火)

会場：関東地方整備局会議室

座長：浅枝隆 (埼玉大学)

テーマ：市民-研究者連携による外来植物の管理・モニタリング

発表：3編，参加者：60名

(2) 今後の活動予定

第3回：平成20年7月

会場：多摩川現場

テーマ：市民-研究者連携による外来植物の管理・モニタリングの事例見学会

第4回：平成20年9月

会場：室内(未定)， テーマ：海岸再生
第5回平成20年11月

会場：現場(未定)， テーマ：海岸再生の現地見学会

3. 第7回北陸現地ワークショップin能登

(応用生態工学会 金沢) 澤 康雄

■開催趣旨

能登地域においては、全国の傾向と同じように里山の荒廃が進んでいます。能登半島地震によりこれがさらに進展する心配があります。また、能登の空に再びトキが飛ぶ姿を復活させようとする運動もあります。こうした中で、能登の風土を理解し、応用地質工学の知見を深化させ、さらに能登地域のためにこれをどう生かすことが望ましいかを議論致します。現地見学会では、金沢大学里山マイスター能登宿舎(珠洲市)、北河内ダムなどを訪れ、能登の風土を肌で体験する予定です。

(1) テーマ

能登の風土～日本の原風景を守ろう～

(2) 日時：行事：場所

平成20年10月30日(木)

10:00～17:45 ワークショップ(能登空港ターミナルビル41会議室)

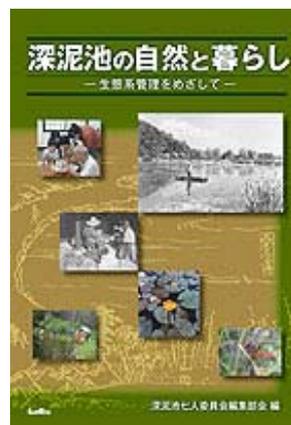
19:00～21:00 交流会(輪島市内)

平成20年10月31日(金)

9:00～15:00 現地見学会(里山マイスター能登学舎、北河内ダムなど)

6 新刊紹介

深泥池七人委員会編集部会編『深泥池の自然と暮らしー生態系管理をめざしてー』



サンライズ出版
B5 248 ページ 並製
SBN978-4-88325-357-9
C3045
発売：2008年03月
定価：3,150円(税込)

深泥池は京都市北部に位置し、その生物群集が天然記念物に指定された面積約 9ha の池である。その中央部に位置する 5ha の浮島がシンボルで、13 万年を超える歴史を持つことが明らかにされている。しかし、周辺環境の変化や外来生物の増加で、水環境も生物群集もさまざまな難題を抱えている。そのような深泥池の価値と現状を見直し、今後の保全と活用の方向を探ろうと、「七人会」(川那部浩哉氏ほか)が編集したのが本書である。

第1章「深泥池とは」では、地域の文化や人々の暮らしとともに存在し続けてきた深泥池の歴史や生物相、生態系の成り立ちを概説し、深泥池は何故貴重なのかを論じている。

第2章「深泥池生物群集の成り立ち」は、植物相と植生、ミズグモなどの動物群、プランクトン、魚類、鳥類など深泥池を特徴付ける生物たちを写真とともに詳しく紹介する。単に種類の紹介にとどまらず、それらの生物群の間に成り立つ相互関係をしっかりと論じて「天然記念物深泥池生物群集」の貴重さに光をあてている。

第3章「深泥池の歴史と文化」は、古文書や聞き取り調査を通じて、深泥池と人々との関わりの歴史を再現している。周辺の遺物や遺跡の紹介も含め、本書の特色ある、そして深泥池の深い理解のために欠かせない1章になっている。

第4章「深泥池生態系管理への取り組み」は、副題にもあるように本書の中核をなす章と言えるかも知れない。前章までで明らかにされた深泥池の貴重な自然が人為によって急速に衰退しつつあることを受け、水質や生物群集を保全するための具体的課題を幅広く論じている。

第5章「深泥池の将来展望」は「深泥池で目指す保全と利用—生態系管理の考え方—」という論考から始まる。一般的な「自然保護」から「生態系管理」へと今後の保全のあり方を見据えながら、行政、市民、研究者の共同体づくりをきめ細かく論じている。

深泥池を紹介した本はこれが初めてではないが、歴史的な人の営みと現実が直面する課題を網羅し、今後の生態系管理のための提案を含めた本書は、「七人会」のメンバーのただならぬ情熱を感じさせる好著になっている。深泥池に限らず、他の水域や湿地の保全にも重要なヒントを提示したものとして推薦したい。

(理事：角野康郎)

7 編集後記・事務局から

<今後の予定：本文参照>

7月 応用生態工学会東京 勉強会
多摩川水辺の楽校(現地)

8月 25or26日 応用生態工学会札幌セミナー
「本来の川を取り戻すために・・・その4」

9月 20-22日 第12回大会および総会
ELR2008 福岡
各委員会、拡大幹事会、理事会

9月 応用生態工学会東京
海岸再生の勉強会(室内)

10月 30-31日 第7回北陸現地WS in 能登
「能登の風土」～日本の原風景を守ろう～

11月 7-8日 第4回東北現地WS in 弘前(計画中)

11月 応用生態工学会東京
海岸再生の現地見学会

新しい試み三学会合同大会ELR2008 福岡に加え、上記のとおり応用生態工学会仙台でもワークショップが検討されています。また、広島、新しく活動を開始する四国地域事務局も平成21年度に地域の行事を開催するため地域幹事との相談など準備を進めつつあるとのこと。また、35名の参加を得て活発であった近畿現地WS in 琵琶湖(5月15日・16日開催)の報告は次ニュースレターに掲載します。

関連学会との提携、地域活動の活性化、ホームページの充実やJ-SATAGE 公開など応用生態工学の普及を通じて社会への貢献、会員の増加を期待しています。

(事務局：奥村興平)

[平成20年5月31日現在会員数]

名誉会員： 3名

正会員： 1,083名

学生会員： 115名 合計 1,201名

賛助会員： 37法人 (58口)